



日本人の齡では六十歳

新年明けましておめでとございます。このコラムも十一回目となります。今年も、どうぞよろしくお願い申し上げます。

さて、旭川村が、神居村、永山村と共に開村したのが明治二十三年(一八九〇年)九月二十日です。今年で百二十周年を迎えます。重ねて、誠にめでとございます。

旭川開村120周年

徐々に高度成長期に突入していきました(経済発展を遂げた第一期)。そして今年、三回目の産声をあげようとしている旭川がこれからの第三期どのような歩みをしていくのでしょうか。私な「ここに住む人たちの心」が榮える時代になってほしいと思います。

を邊層と言っているので、干支が二回することになります(大邊層)。原点に立ち戻ってこれからのまちのあり方を考えるにはとてもいい機会だと思います。旭川の歩みを人生の成長に例えれば、北方の警備と開墾を目的として最初の人生がスタートしました(軍都として栄えた第一期)。その後、北海道開発大博覧会が開催された昭和二十五年(一九五〇年)に二回目の産声をあげて

今後、人口減少と少子高齢化は否応なく進み、GDP(国内総生産)的な意味での経済のバイ全体を駆けつけていくのは相当困難な時代になっていくでしょう。しかし、地域に住む住民一人当たりのGDPを維持し、高めながら、ここに住む人たちが、あくせくせずに、心豊かに暮らせるまちであってほしいと思います。「居心地のいい街」「住みやすい街」と言ってもいいでしょう。美しい大自然の中で、美味しく健康的な食があり、老若男女、楽しめる場がある。皆が助け合い、精神的な充実感がある。そのような「心の豊かさ」を高められるまちであってほしいと思います。そのようなまちへのに向けて、全国での競争になっていくと思います。

旭川市では鋭意知恵を絞ってこの記念すべき年に、旭川をはじめとした道北各地の「食」をテーマとしたイベントを企画しています。新しい旭川駅も十月には第一次開業の手定です。旭川が全国、全世界に向けて大いにアピールできる好機ですね。このまちの原点であるフロンティア精神を今一度思い起こし、次なる時代を拓いていかれることを是非ともお祈りしています。

日本銀行旭川事務所長 ※毎月第一週に掲載します

屋家啓之(おいえのりゆき) 一九五八年(昭和三十三年) 東京都生まれ。八一年(同五十六年)日本銀行に入行。米国内シントンでの勤務も、橋本内閣の行政改革会議事務局への出向、総務人事企画などを経て、〇七年(平成十九年)から旭川事務所長。趣味は音楽全般、ゴルフ、読書、社交ダンス。